

## 福知山線・羽越本線脱線事故から10年 事故の教訓を胸に刻み 安全最優先の取組みを

### JR連合「第1回安全対策委員会」「第12回業種間安全検討会」



JR連合は7月27～28日、四国の高松、丸亀両市において、「第1回安全対策委員会／第12回業種間安全検討会」を開催した。

一日目は、倉敷紡績株式会社丸亀工場において業種間検討会が開催され、UA ゼンセン香川県支部、JR連合安全対策委員、JR四国労組の皆さんの参加を含め24名で、業種を超えた安全に対する意見交換がされた。倉敷紡績労働組合様からは、同工場での安全衛生委員会を中心とした安全管理について説明を受け、特に、いわゆる「5S」に“習慣”といった項目をプラスした「6S」の取組みの紹介があり、躰や習慣については、企業内、職場内での社員間のコミュニケーションがいかに取りれているかが大切であるとした上で、毎月の点検項目対象としているとのお話をいただいた。業種こそ違え、社員の安全・お客さまの安全は、最大の課題・そして目標であり、教えられる事の多い安全検討会となった。



倉敷紡績(ケボ)丸亀工場を視察

二日目、JR四国労組本部会議室にて開催された「第1回安全対策委員会」では、各単組の安全の取り組みの報告と併せて、福知山線及び、羽越本線列車脱線事故から10年の節目となる

中で開催する第9回安全シンポジウムについて検討がされた。

JR東日本においては、死亡労災事故、重大インシデントが続いている。如何に歯止めをかけるか、重要かつ喫緊な課題として、労使ともに胸襟を開いた議論を進めなければならない。



報告：菅井安全対策委員（関東エリア地本委員長）

**お客様の安全はもとより、JR連合の安全指針・行動指針の具現化で  
すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災事故ゼロの取組みを実践しよう!**